

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。酷暑です。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

夏休み。久しぶりの帰省や旅行で親戚や旧友に会い、「ご機嫌いかがですか」と言い交すことも多い季節ですね。

この「機嫌」も仏教用語です。本来は「譏嫌」と書き、文字通り「譏(そし)りを嫌う」という意味です。

今日では、「私は機嫌が悪い」と自分の気持ちを表現したり、「相手の機嫌を損ねない」と他者の気持ちを慮る両面で使われます。

世間のお布施で生活している僧や修行者が衣食住などで贅沢をすることは、世間の墮感(ひんしゆく)、すなわち「譏り(そしり)」を買うことでした。お布施で贅沢三昧することは許されません。

そこで戒律が課せられました。蓄財をしない、贅沢をしないという「遮戒」。仏弟子が仏道に励

むことができるようにという配慮から生まれた戒律です。

仏弟子が人々から敬われず、「譏り」を受けるようになれば、僧伽(そうぎや)仏教教団)は立ち行かなくなりません。たった一人の非行でも、世間から「譏り」を受ければ、僧伽の存続は危うくなります。

「譏り」を受けることを「嫌う」。戒律を定めて「譏り」を避ける。世間の「譏り」を受けないように「機(タイミング)」を覗う。それが「機嫌」の本来の意味です。やがて、そこから他者の心を覗う意味や、安否を気遣う意味に変化していきました。

世間の機を計り、自らを律し、慎ましく生きる本来の「機嫌」。しかし、現代の使われ方は、相手の顔色を覗い、良い評価を下してもらえよう的に阿る「ご機嫌」。自らが中心であるかの如く「私は機嫌が悪い」などと一人称で使う「機嫌」。どちらも本来の意味とはほど遠い使い方ですね。

「ご機嫌」取りはほどほどに、俺様意識丸出しの「自分の機嫌」

を優先することなく、「機嫌」の本来の意味を旨とした慎み深い日々を過ごしたいものです。

嫌なこと遭遇し、自分の気持ちを指して、「私は機嫌が悪い」などと表現することは、「機嫌」の本来の意味とは異なりま

す。では「私は気分が悪い」と表現するとどうでしょうか。「気分」を「分ける(シェアする)」ということは、自分の気分が悪ければ、相手も気分が悪いということ

とかもありません。だから気まぐずい雰囲気になります。自分が相手を嫌いな時は、相手も自分を嫌っています。「気分」も仏教用語のような気がしてきました。

日常会話の中に浸透している仏教用語。まだまだたくさんあり、知らないことばかり。奥が深いですね。

今日も「機嫌」良く過ごしましょ。自らを律して「譏り」を受けないように慎ましく過ごすこと。それが「機嫌」良く過ごすことの本来の意味です。

※

耕平

中日文化センター企画 この旅行は下記「中日ツアーズ様」へお問い合わせください。

## 「仏教に親しむ高野山の旅」

～大塚耕平と行く高野山バスツアー～

旅行期日：平成30年10月27日(土)～28日(日) 1泊2日

旅行代金：下記中日ツアーズにお問い合わせください。

1日目	名古屋駅西口 7:20 集合	→〈東名阪・名阪国道・西名阪〉→	高野山	金剛峯寺	蓮華定院
			【昼食】	【拝観】	【夕食・宿泊】
2日目	蓮華定院	→	高野山奥の院	→	中本名玉堂
	【宿泊・朝食】		【参拝】		【買物】
				→	九度山
					真田ミュージアム
					名古屋駅西口 (18:40頃到着)
					→〈西名阪・名阪国道・東名阪〉→

- 最少催行人数 / 30名様
- 食事 / 朝1回、昼2回、夜1回
- 添乗員同行
- バス会社 名鉄観光バス(予定)



弘法大師空海が開いた高野山。今もなお、多くの人々の心を引き付けています。真田幸村縁(ゆかり)の宿坊(蓮華定院)に一泊しつつ、「暮らしの仏教」講座でお伝えしてきた仏教の歴史と教えを振り返り、さらに深い心の安らぎを求めます。

中日文化センター 紀行講座



- 「1. 機嫌を伺う、ご機嫌取り(X)」
- 「2. 私は機嫌が悪い(X)」
- 「3. 自分を律して 機嫌よく過ごす(O)」

● お問い合わせ・お申し込みは 観光長官登録旅行業第 636 号  
**中日ツアーズ** (中日企業株式会社) 電話 052-231-0800  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目 5 番 2 号 中日新聞社北館 1F  
営業時間 平日 10:00～18:00 (日・祝日休み) 総合旅行業務取扱監視者 桜井大祐

旅行企画実施